

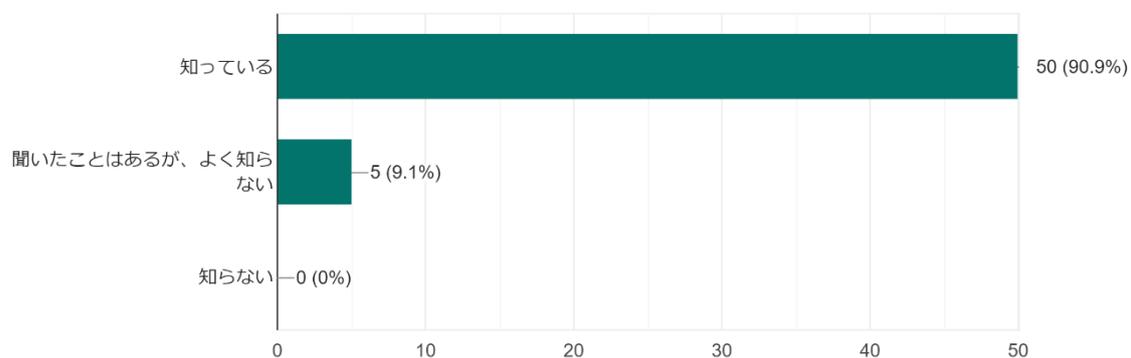
## ヤングケアラーについて（緊急アンケート）

期間 令和4年3月24日～30日

回答者数 55名

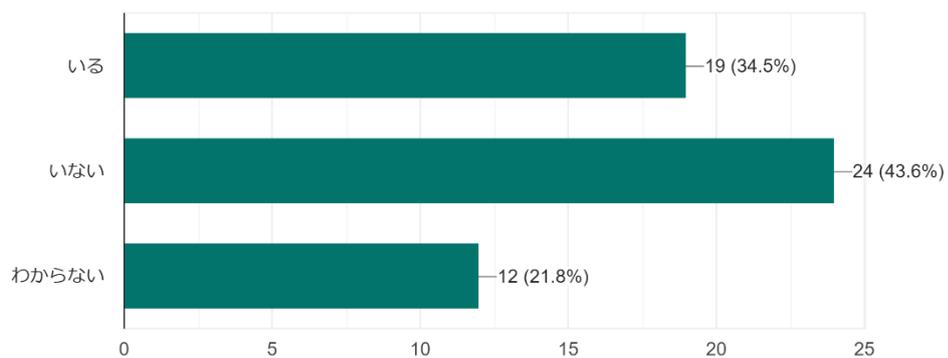
問1. あなたは「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。

55件の回答



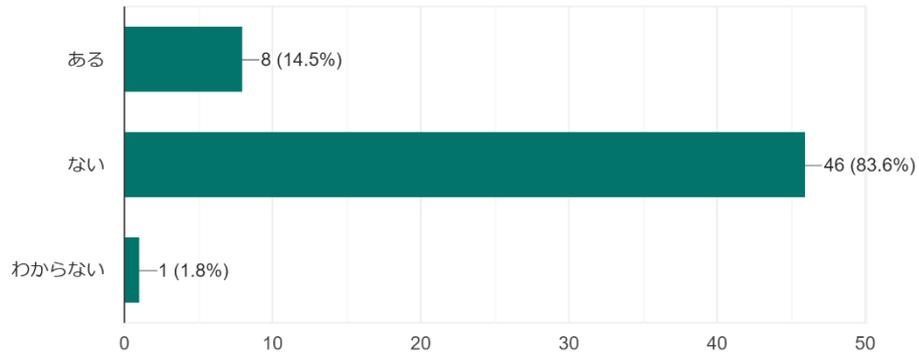
問2. あなたの周りに、ヤングケアラーと思われる人はいます（いました）か。

55件の回答



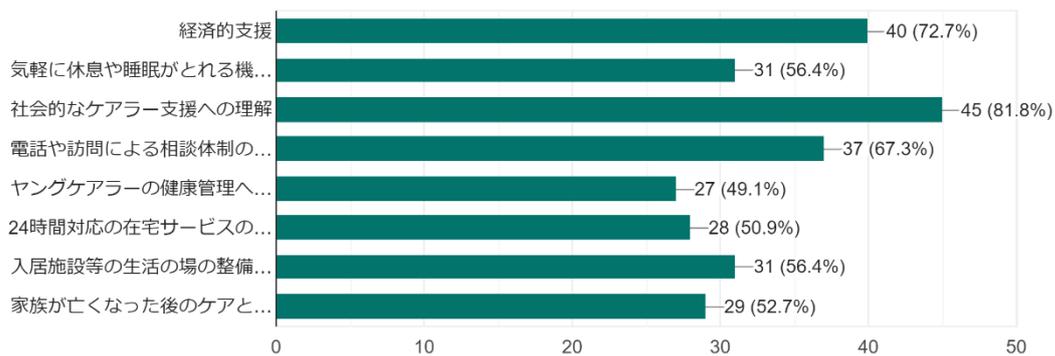
問3. あなたはヤングケアラーから相談を受けたことがありますか。

55件の回答



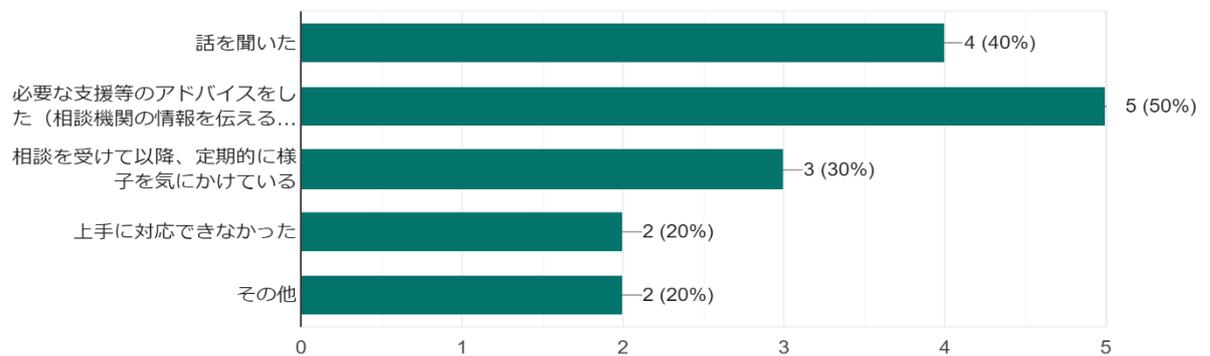
問4. ヤングケアラーに必要な支援はどのようなものだと思いますか。（複数回答可）

55件の回答



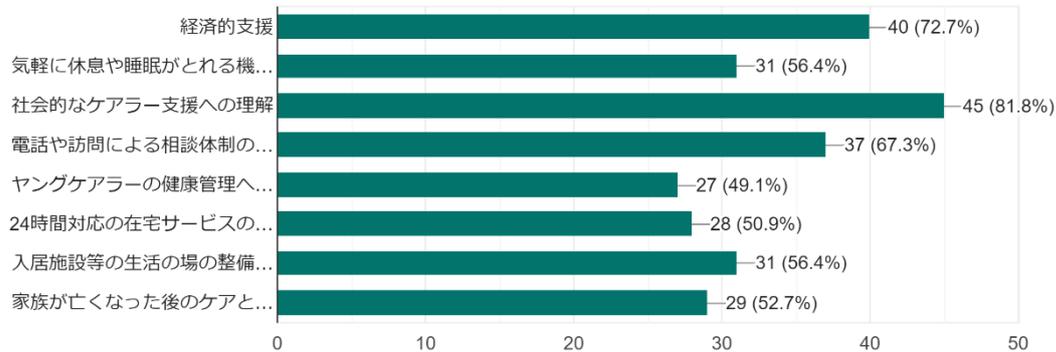
問3. 「ある」と答えた方にお伺いします。）その方へどのような対応をしましたか。

10件の回答



問4. ヤングケアラーに必要な支援はどのようなものだと思いますか。(複数回答可)

55件の回答



問5. あなたの身近にケアラー及びヤングケアラーがいたとして、どんな支援ができそうか、具体的にお書きください。

- ・ 介護の相談対応、おせっかいくらいの声掛け、学校の手伝い(行事などの参加がちゃんとできる様に関わってあげる)
- ・ ケアラー自身が惨めにならない関わり方ができるといいかなと思います。今の状況を誇りを持っているケアラーもいると思うので…。「何かしてあげる」っている姿勢はちょっと違うかなと。いろんな家族の在り方があるよねっていう承認。
- ・ 行政へつなげる。サービスや制度の説明。
  - ・ 話をじっくりゆっくりと聞いてあげる。
  - ・ 希望あれば、同じ状況の方との交流を提案し探す。
  - ・ 休息の時間作りのためのサービス提案。
- ・ どのような介護者に関してもケアマネとしてできる範囲での支援をしていくしかないと思います。若者であろうかなかろうが、抱える課題は人それぞれだと思いますので、ヤングケアラーと言うワードをクローズアップするのではなく、やはり個人(各家庭)の課題に対し、丁寧に対応するしかないと感じています。ただ、ヤングケアラーと言う言葉が世に出たことで支援するにあたっての視点が増えたことは良いことだと思っています。

問4の支援はすべて必要と思いますが、これらが必要なのはヤングケアラーに限った話ではないと思います。介護者への各種支援は行政の責任の下で行われるべきであると強く感じています。"

- 話を聞き、支援を活用してよいことを伝える。支援する人につなぐ。

対応したことがあるのは10年以上前の話で当時はご本人をサービスにつなげる以外の業務を業務とはとらえておらず、介護者のケア等の面接に重きをおけていなかった。結局その介護者さんはうつ病になり今現在も精神科病院に長期入院されているような状況。ケアマネジャーが抱え込んだわけでもなく通常の家族と同じようにとらえてただサービスにつなぐだけを考えていたので、地域包括支援センターに相談した時にケアをする人のフォローのような窓口が明確にあると繋ぎやすいしケアマネも動きやすいのではと思う。
- まずは知ることが必要だと思います。
- ヤングケアラーのことを美談にしないで支援する社会が必要と考えます。ヤングケアラーに頼ることなく生活できる支援の仕組みが大切と思います。学校関係者の考えも聞きたいです。ということはできても具体的な案は案外浮かびません。
- 少しでも負担が和らげられるよう、自治体に相談してつなげていく。
- 相談しやすい環境を作ってあげたい。まだ、若く、自分が介護しており困っていることを人には話せないと思うので。少しでも気持ちを軽くできる共有の場があればとおもいます。
- 相談できる場があることの啓発活動をしたいと思います。
- まず、1人で抱え込まずに気軽に相談出来る場所及び人を紹介し、一緒に出向いて相談にのる。
- "要介護者にあつたサービス調整。  
ヤングケアラーに対しての情報提供。将来性への選択肢の提示。"
- まず話を聴く。困っている事や大変な事を伺い、私が今できる事がないか考える。介護保険や障害、医療、行政など支援が必要な場合は繋げる。
- 相談先の紹介
- 家族だからと言って、貴方の人生を束縛することはできない。貴方にはあなたの人生がある。 会議の場で発言できます。
- 必要なサービスを確保して、インフォーマルサービスの構築

- ・ ヤングケアラーに対する介入については、相談できる場所の周知徹底、家族としてひとまとめにしない若者へのアプローチをすること。義務教育の年齢であれば生活を整えることの案を提案していくことが必要と思われる。
- ・ 常に連絡を取り相談できる関係を作り、一緒に介護していくチームを作る。もちろん本人を中心とした支援をする上で、関係性をコーディネートしていく上で、ケアラーとなっている方の生活を守るための支援体制を整えて、協働で支援していく
- ・ 相談を受けて相談にのり、サービスの調整をする。また学校関係者との連携もとれるように対応する
- ・ 当事者同士で話ができる場を作り心理的な負担の軽減を図る。そのうえでそれぞれのケースに必要な支援を一緒に考える。